

第3章 黒石市の生涯学習

1 経緯とこれまでの取り組み

黒石市では、昭和50年代に1小学校区に1公民館を設置し、各公民館に地区協議会を組織することで、地区ごとに地域づくりを進めてきたことが生涯学習の考え方のひとつといえます。

その後、昭和63（1988）年度に文部省並びに県の「生涯学習モデル都市」に選定されたことから生涯学習の推進が本格化し、その理念が少しずつ市民に認識されてきました。平成4（1992）年には、市民憲章を基本理念とする「黒石市生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画」を策定し、「ふるさとに学び、ふるさとを愛し、心身ともに豊かな市民をめざす」生涯学習社会の実現に、三つの市民像を掲げ、課題解決に取り組んできました。

平成6（1994）年には、生涯学習のまちづくりを総合的かつ効果的に推進するため、「黒石市生涯学習のまちづくり推進本部」を庁内に設置するとともに、市民サイドの「黒石市生涯学習のまちづくり推進市民会議」を設置し、「行政」と「市民」相互の体制づくりを図りました。

また、平成8（1996）年には「教育の森構想」に基づいた、スポカルイン黒石（スポーツ・産業・文化センター）が開館し、市内10地区の各公民館とともに、生涯学習等の活動拠点として市民に利用されています。

平成11（1999）年度からは、生涯学習に関連するソフト事業として、「出前講座くろいし」がはじまりました。

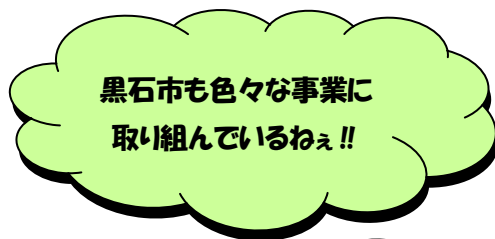


平成14（2002）年度には、生涯学習を市の総合的施策として推進するため、それまで同一視されてきた社会教育と分け、教育委員会部局から市長部局へと担当が移りました。具体的施策として、市職員による地区担当制「わがまちづくり推進員」制度を導入しました。また、平成15（2003）年度からは「わがまちづくり支援事業」を創設するなど、地域住民と市職員らによる地区構想・計画づくりの事業を展開してきました。

平成16（2004）年4月には、黒石市生涯学習のまちづくり推進委員会が「黒石市生涯学習のまちづくり推進のための具体策」を答申し、これを受けて平成17（2005）年3月に「黒石市生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画」を策定しました。

平成19（2007）年度からは、生涯学習に関する市民の意識向上を図るため、「黒石市生涯学習のまちづくり研究大会」を開催しています。

平成21（2009）年度には第3次計画策定に向けて、生涯学習まちづくりアンケートを実施しました。



● 出前講座くろいし

平成11（1999）年度から、生涯学習の一環として、市民などが主催する集会等に市職員（管理職）が講師として出向き、市政の説明など専門的知識を活かした出前講座を行っています。市民の学習機会の拡充を図るとともに、市政に対する理解を深め、黒石市のまちづくりを推進することを目的としています。

【利用方法等】

- 利用人数 . . . 原則として10人以上からご利用できます。
- 講師料 . . . 無料です。（ただし、講座によって必要な材料などは用意していただく場合もあります。）
- 開催時期 . . . 通年です。（ただし、担当課の都合により希望に添えない場合もあります。）
- 開催時間 . . . 午前9時から午後9時までの間で、原則2時間以内です。
- 開催場所 . . . 公共施設以外でも開催できます。
- 申込み締切日 . . . 開催日の14日前までにお申込みください。

開催状況（平成17年度～平成24年度）

年度	講座数	回数	参加者人数
17	57	34	1,456
18	55	45	1,968
19	49	42	1,928
20	49	39	1,201
21	49	25	796
22	46	28	962
23	45	33	2,017
24	42	32	1,068
平均	49	35	1,425



● 生涯学習まちづくりアンケート

第3次黒石市生涯学習のまちづくり推進計画の策定に向けて、平成21（2009）年度に市によるアンケート調査を実施しました。アンケートの結果、生涯学習の認知度や関心の有無、市の施策に対する意見など、市民の生涯学習や地域活動に関する意識や実態が明らかになりました。

- 対象 平成21（2009）年7月1日現在、満18歳以上の市民31,554人の中から無作為抽出による1,500人（男性708人：47.2%、女性792人：52.8%）
- 回答者 649人（男性299人：46%、女性334人：51.5%、不明16人：2.5%）で回収率は43.27%
- 設問の一部（回答はP14以降を参照）

- ・あなたは生涯学習を知っていますか？
- ・生涯学習活動に関心をお持ちですか？
- ・学習活動を行うとして問題になることはどんなことですか？
- ・学んだことをどのように役立てたいと思いますか？



2 現状と課題



平成21（2009）年度に実施したアンケート調査（以下アンケートという）において、「あなたは生涯学習を知っていますか？」という問いに対して、「知っている」という回答が62.9%で、「知らない」という回答が35.9%、「無回答」が1.2%でした。この結果から、市民の生涯学習に対する認知度は浸透してきているようです。

黒石市には、長い年月をかけて先人たちが創り上げ、守り続けてきた歴史情緒溢れる街並みと豊かな自然、そしてねふたやよされなどの伝統行事が、今も鮮やかに息づいています。

しかし、市民の中には黒石の魅力に気付いていない人もおり、黒石の魅力を地域外に向けて発信するという意識は低い傾向にあります。

そのため、生涯学習を通して市民一人一人が、黒石らしさ、黒石の良いところを認識することは、地域に対する誇りや愛着を持つ第一歩になり、さらに魅力的なまちづくりへとつながっていきます。

ここでは、黒石市の生涯学習についての現状と課題を、次のとおりまとめました。



黒石の良いところ

黒石の人は前向きである。

黒石の人は思いやりがある。



黒石は水がとても綺麗。

年代を問わず皆仲が良く、協力して行事などに取り組んでいる。

(1) 市民一人一人の現状と課題

ニーズ

【現状1】

- ・生涯学習のニーズは高まってきている。
※アンケートの結果、生涯学習に大いに興味がある・ある程度興味があるという回答の合計が60.9%であった。
※出前講座くろいしの利用回数が過去5年間平均で31回となっている。

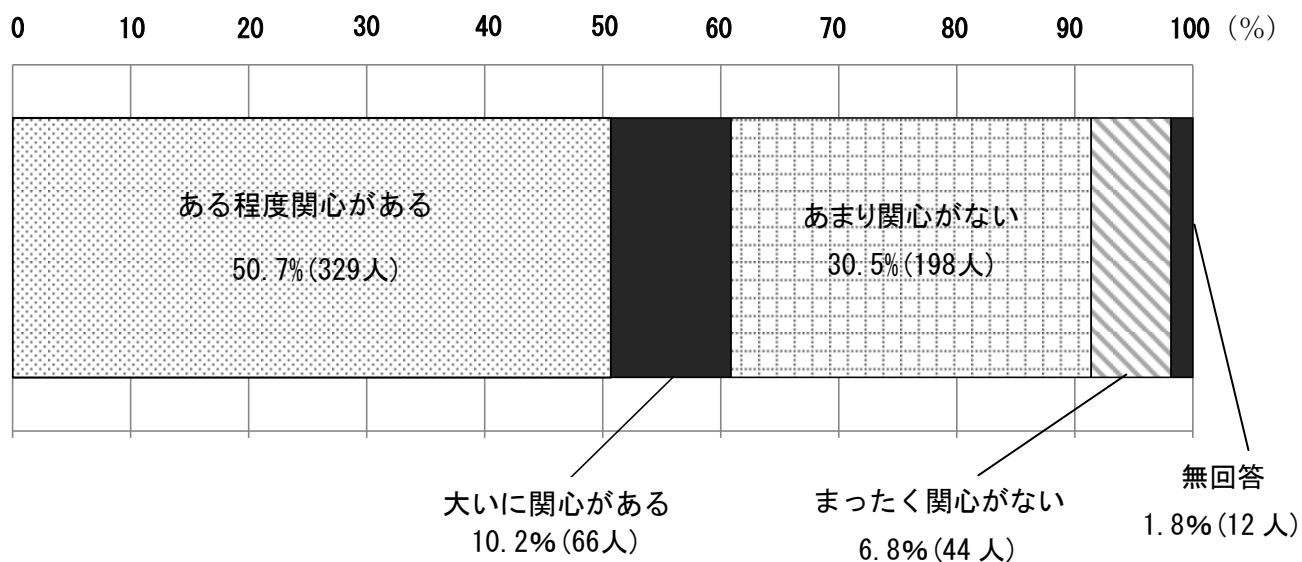
【現状2】

- ・分野別のニーズが把握されていない。

【課題1】

- ・分野別のニーズの把握及び学習するための支援等。

【問】生涯学習活動に関心をお持ちですか？



生涯学習のまちづくりアンケート調査(平成21年度)

情報

【現 状】

- ・学習したいがどうしていいのかわからない。
※アンケートの結果、学習活動を行うとして問題になることはどんなことかという質問に対し、学習したいがどうしていいのかわからないという回答が17. 1%で三番目に多い回答だった。

【課 題】

- ・学習相談体制の整備・充実。

時間

【現 状】

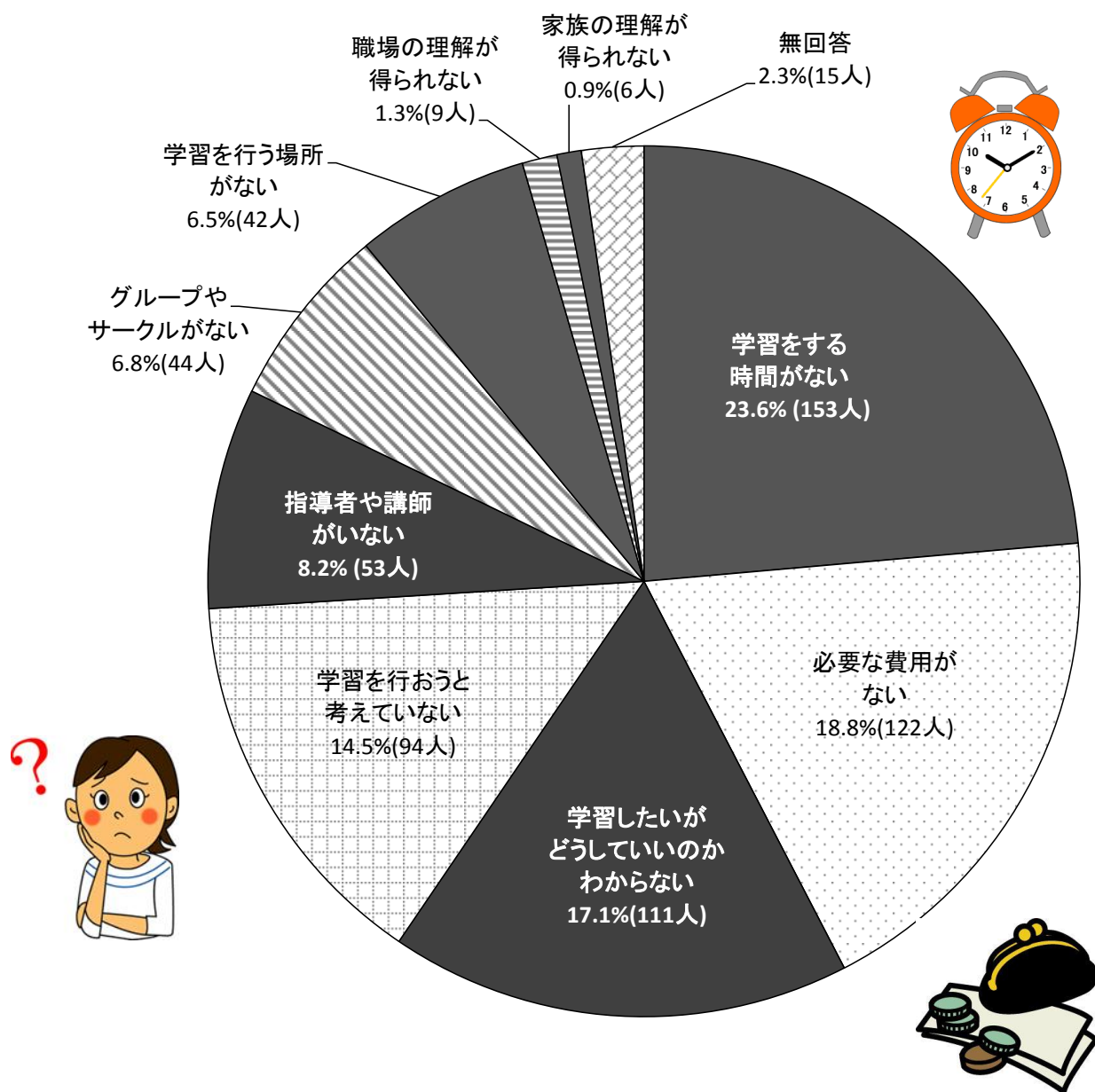
- ・学習をする時間が無い。
※アンケートの結果、学習活動を行うとして問題になることはどんなことかという質問に対し、学習をする時間がないという回答が23. 6%で最も多い回答であった。

【課 題】

- ・生涯学習の意識啓発。



【問】学習活動を行うとして、問題になることはどんなことですか。
(あてはまるものを1つ選んでください。)



黒石市「生涯学習のまちづくりアンケート調査」(平成21年度)

インターネット等

【現 状】

- ・インターネット等の普及により、住民の情報収集能力が拡大し、インターネットによるコミュニケーションも図られている。

【課 題】

- ・インターネット等環境の整備及びコンテンツの充実。



市民への意識啓発

【現 状】

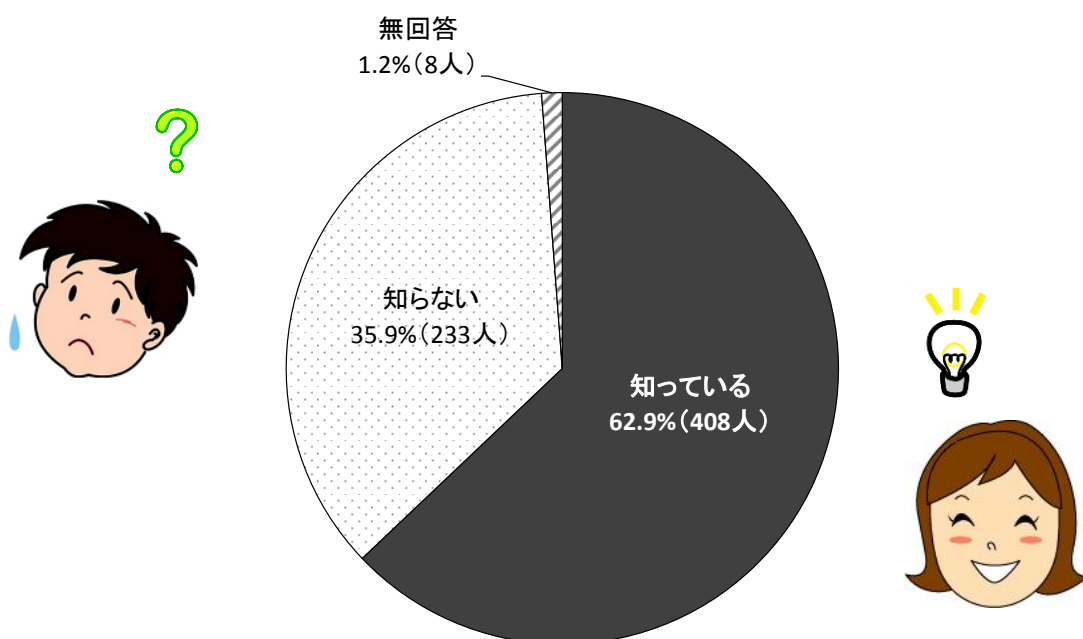
- ・生涯学習に対して無関心な人もおり、全体としての気運は盛り上がりにかけている。

※アンケートの結果、生涯学習を知らないという回答は35.9%であった。

【課 題】

- ・生涯学習に関する意識啓発手段（講演会、広報活動等）の充実。

【問】生涯学習を知っていますか？



黒石市「生涯学習のまちづくりアンケート調査」（平成 21 年度）

(2) まちづくりの現状と課題

地域活動・コミュニティ

【現 状 1】

- ・ 地域活動団体等への参加者が減少し、活動の継続が難しくなっている（町内の子ども会、婦人会、老人会等）。

【課 題 1】

- ・ 参加者増員、団体継続のための取り組み。

【現 状 2】

- ・ 地域活動等に参加の意欲を持っているにもかかわらず、きっかけをつかめない人もいる。

【課 題 2】

- ・ 地域活動等への参加機会の拡大。

【現 状 3】

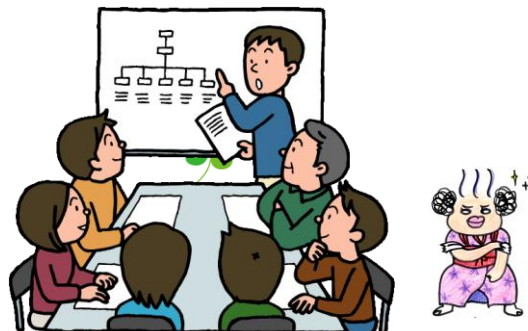
- ・ お金で問題を解決する風潮が見られる（地域活動に不参加の場合の罰金制度等）。



【課 題 3】

- ・ 住民自治の意識向上。

○住民自治 「自治体の運営はその自治体の住民の意思にもとづき、住民の参加によって行われるべき」という考えのもと、自治体経営について広く住民の参加を認め、地域内の課題解決をその地域の住民と自治体が同じ立場で実施すること。



地域活動・コミュニティ

【現 状4】

- ・町内加入率の低下など、人間関係が希薄化し、お隣コミュニティが崩壊してきている。

【課 題4】

- ・地域活動等への参加機会の拡大。

【現 状5】

- ・市街地ほど学校と地域の連携が困難である。

【課 題5】

- ・学校と地域社会の連携促進。



【現 状6】

- ・地域にある職場単位での活動が見られなくなった。

【課 題6】

- ・新たな地域活動の発掘。

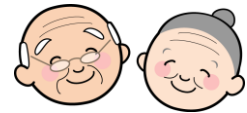
社会要請

【現 状】

- ・少子高齢化の進展や市民ニーズの多様化により、幅広い分野において行政だけでは解決できない様々な問題が生じている。

【課 題】

- ・市民と行政による協働体制の確立。



人 材

【現 状】

- ・組織、団体等の後継者が不足し、リーダーの負担が増大している。

【課 題】

- ・人材育成環境の整備及び充実。

(3) 行政の現状と課題

環境



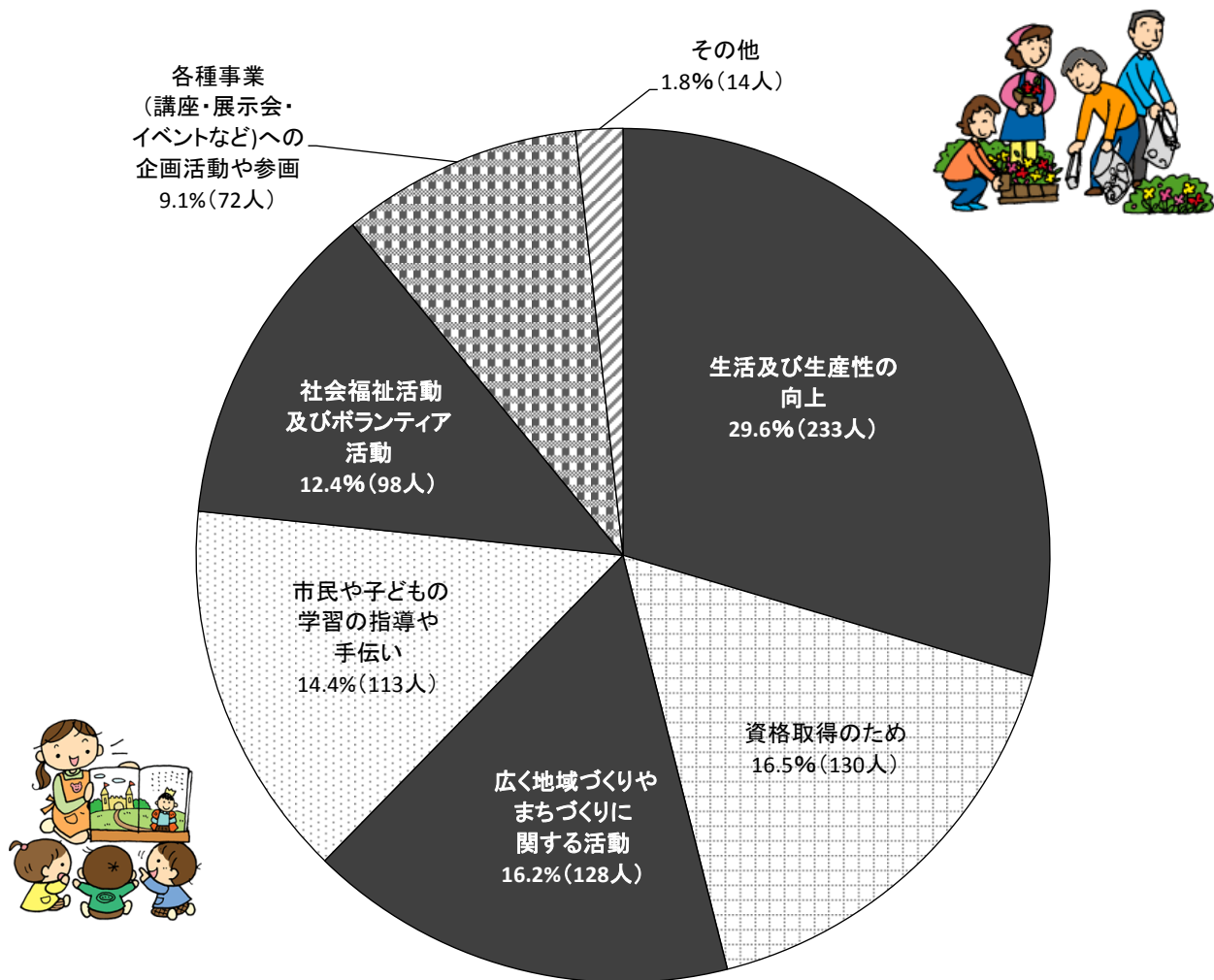
【現 状】

- ・生涯学習の成果を活かせる環境が整っていない。
- ※アンケートの結果、学んだことを生活及び生産性の向上に役立てたいという回答が最も多く29.6%であった。

【課 題】

- ・学習成果を活用できる環境づくり。

【問】学んだことをどのように役立てたいと思いますか？（あてはまるものを全て選んでください。）



黒石市「生涯学習のまちづくりアンケート調査」（平成21年度）

推進体制の整備



【現 状】

- ・生涯学習にかかわる活動は多岐に渡るもので、行政側の全庁的な推進体制が求められるが、整備が十分ではない。

【課 題】

- ・庁内連携体制の見直し。

市職員への意識啓発



【現 状】

- ・市職員の生涯学習のまちづくりに関する共通理解と認識がまだ十分ではない。

【課 題】

- ・市職員の生涯学習に対する意識啓発。

